

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 44 週 (10 月 30 日～11 月 5 日)

今週のコメント

～ 感染性胃腸炎 ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理を

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 やや減少」

第 44 週は前週比 4.1%減の 1,781 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、手足口病、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 3.3、1.8、1.3、0.7、0.5 であった。

感染性胃腸炎は前週比 4%減の 664 例で、南河内 5.9、中河内 4.5、北河内 4.4、泉州 3.8 の順となっている。

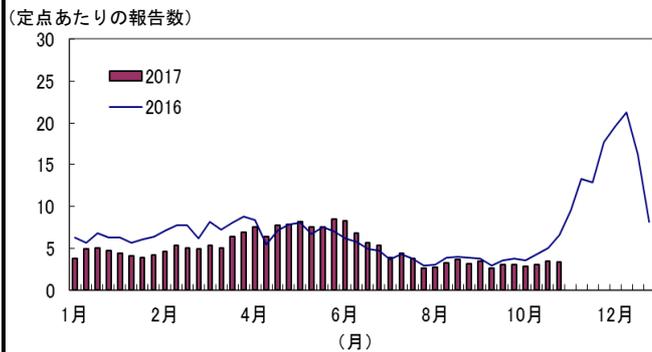
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 10%増の 352 例で、南河内・大阪市西部・大阪市北部 2.8、中河内 2.2 である。

RS ウイルス感染症は 17%減の 254 例で、泉州 2.3、南河内 1.9、北河内 1.5、堺市・大阪市西部 1.4 であった。

手足口病は 4%減の 140 例で、北河内・三島・大阪市南部 1.1、大阪市北部 0.9 であった。

水痘は 23%増の 96 例で、大阪市北部 1.2、南河内 0.8、北河内 0.7、三島 0.6 であった。

感染性胃腸炎



A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

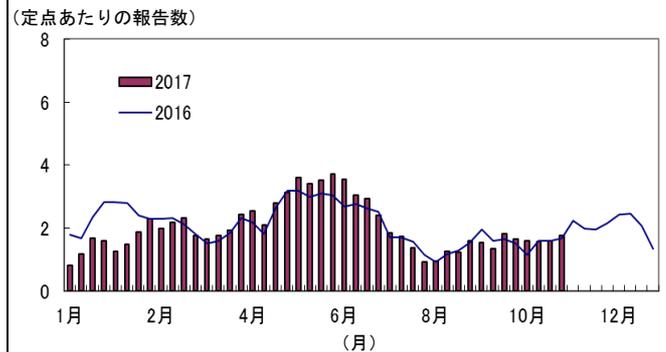


表 1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017 (平成 29) 年 第 44 週 10 月 30 日～11 月 5 日)

第 44 週 の順位	第 43 週 の順位	感染症	2017 年 第 44 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016 年 第 44 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 44 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.3	4%減	6.6	1 歳_17%
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.8	10%増	1.7	5 歳_14%
3	3	RS ウイルス感染症	1.3	17%減	1.9	1 歳未満_39%
4	4	手足口病	0.7	4%減	0.6	1 歳_36%
5	7	水痘	0.5	23%増	0.4	6 歳_17%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ 定点報告疾患)	0.3	32%増	0.3	20 歳以上_23%

第 44 週のコメント

～ 梅毒 ～ 2017 年の国内の梅毒感染者は、1999 年以降、最も多く報告されています

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の感染者は、2010 年より増加傾向にあり、2017 年の報告数はすでに 2016 年を上回った。感染症法が施行された 1999 年以降、最も多く報告されている。梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗生物質の服用で治癒が期待できる。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(週別報告数)

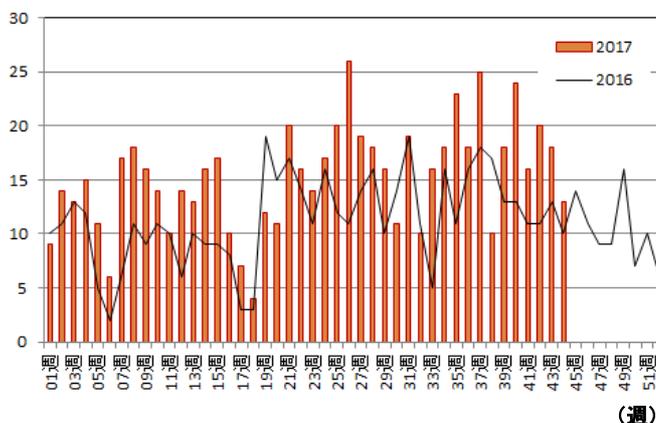


表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 44 週 10 月 30 日～11 月 5 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 4 名 (中河内ブロック 2 名、堺市 2 名、 府内累積報告数 155 名)
4 類感染症	レジオネラ症 4 名 (北河内ブロック 1 名、大阪市 3 名、 府内累積報告数 73 名)
5 類感染症 (麻しん、風しんは 除く)	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2 名 (泉州ブロック 1 名、大阪市 1 名、 府内累積報告数 118 名) 後天性免疫不全症候群 2 名 (大阪市 2 名、府内累積報告数 149 名) 侵襲性肺炎球菌感染症 2 名 (南河内ブロック 1 名、堺市 1 名、 府内累積報告数 202 名) 梅毒 13 名 (豊能ブロック 3 名、堺市 1 名、大阪市 9 名、 府内累積報告数 673 名)
結核 (2017 年 9 月分)	結核 新登録患者数 : 169 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 81 名) (府内累積報告数 1443 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 603 名)
麻しん、風しん	報告はありません

(2017 年 11 月 7 日 集計分)